

2024年度

「授業評価アンケート」の結果
および評価報告書
(後期)

北海商科大学

目 次

I. 授業評価アンケートの実施について	3
1. 授業アンケート調査実施の趣旨	3
2. 調査の実施方法	3
3. アンケート回収結果	3
4. アンケート調査項目	4
5. 調査結果の集計・分析と授業改善に向けた結果の活用について	6
6. 教員返却用集計フォーム	8
II. 集計結果について	10
1. 全科目の単純集計結果について	10
2. 各科目カテゴリーの単純集計結果について	13

I. 授業評価アンケートの実施について

1. 授業アンケート調査実施の趣旨

大学教育の質的向上を図るため日常的に教育活動の点検・評価を実施し、その成果と到達点を検証して改善に努めることは、こんにちあらゆる大学に課せられた社会的責任となっています。本学でもそうした社会的要請に応えるべく、教育方法改善委員会のもとで2009年度より継続して調査・点検が行われてきました（2020年度は新型コロナウイルス感染症により異なる方法にて実施）。

この調査の目的は、各授業の成果・効果・到達点、さらに改善点などについて、学生から提供された授業の評価データを全科目、科目カテゴリー、教員個々を単位にして集計・分析し、結果を授業の自己点検・自己評価、授業改善のための参考資料として活用することにあります。このたび2024年度前期開講科目に関する調査結果がまとまりましたので、ここに報告いたします。

2. 調査の実施方法

- (1) 調査方法：manabaを利用したアンケート調査
- (2) 調査期間：2024年12月26日（木）～2025年1月29日（水）
- (3) 調査対象：開講全科目・全学年の授業（専任・非常勤を含む全ての授業）。
ただし、履修者2名以内の科目は除く。
- (4) 調査内容・形式：全科目カテゴリー共通の調査票でアンケートを実施。「学生の行動」「授業手法・教員の行動」「授業内容」「教育効果」などに関する「選択式回答13項目」「自由記述回答2項目」で回答を得る。

3. アンケート回収結果

アンケート回収結果は、表1の通りです。

表1 授業アンケート実施状況

授業科目カテゴリー	(A) 対象 クラス数	(B) 実施 クラス数	(C) 実施率 (B/A)%	(E) 対象クラ ス受講者数	(F) 実施クラ ス回答者数	(G) 回答率 (F/E)%
(1) 異文化交流科目（語学）	14	14	100	133	95	71.4
(2) 異文化交流科目 社会と文化 （社会文化ゼミナール）	9	9	100	151	112	74.2
(3) 異文化交流科目 社会と文化 （社会文化ゼミナール以外）	21	21	100	1,156	797	68.9
(4) 専門基礎科目	13	13	100	556	354	63.7
(5) 専門関連科目	20	20	100	667	394	59.1
(6) 商学科専門科目	29	29	100	960	439	45.7
(7) 観光産業学科専門科目	23	23	100	538	357	66.4
(8) 専門キャリアアップ科目	15	15	100	205	132	64.4
(9) 教職に関する科目	8	8	100	115	88	76.5
合 計	152	152	100	4,481	2,768	61.8

4. アンケート調査項目

- Q1. この科目の一週間の平均的な学習時間（予習・復習）はどれくらいですか？（選択必須）
- 5 4時間以上
 - 4 2時間～4時間未満
 - 3 1時間～2時間未満
 - 2 1時間未満
 - 1 全くしていない
- Q2. この科目の授業にどれくらい出席していますか？（オンライン授業については、課題を学習した場合は出席したと考える。）（選択必須）
- 5 全て出席
 - 4 9割程度
 - 3 7割程度
 - 2 5割程度
 - 1 4割以下
- Q3. この科目の授業に積極的に臨めていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q4. この科目の授業内容を理解できていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q5. この科目の到達目標を知っていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q6. この科目の成績評価の方法・基準を知っていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない
- Q7. この科目の授業内容はシラバスに沿って行われていますか？（選択必須）
- 5 そう思う
 - 4 ややそう思う
 - 3 どちらともいえない
 - 2 あまりそう思わない
 - 1 そう思わない

Q8. この科目の難易度についてどう思いますか？(選択必須)

- 5 高すぎる
- 4 高い
- 3 ちょうどよい
- 2 低い
- 1 低すぎる

Q9. 担当教員はこの科目への積極的な参加や自発的な学修を促すように工夫していますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q10. 担当教員は質問や相談の対応およびフィードバックを適切に行っていましたか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q11. この科目の受講を通して、解決すべき課題を自ら見出せるようになったと感じますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q12. この科目の受講を通して、自らの考えを持てるようになったと感じますか？(選択必須)

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

Q13. この科目の総合評価を5段階で選択してください。(選択必須)

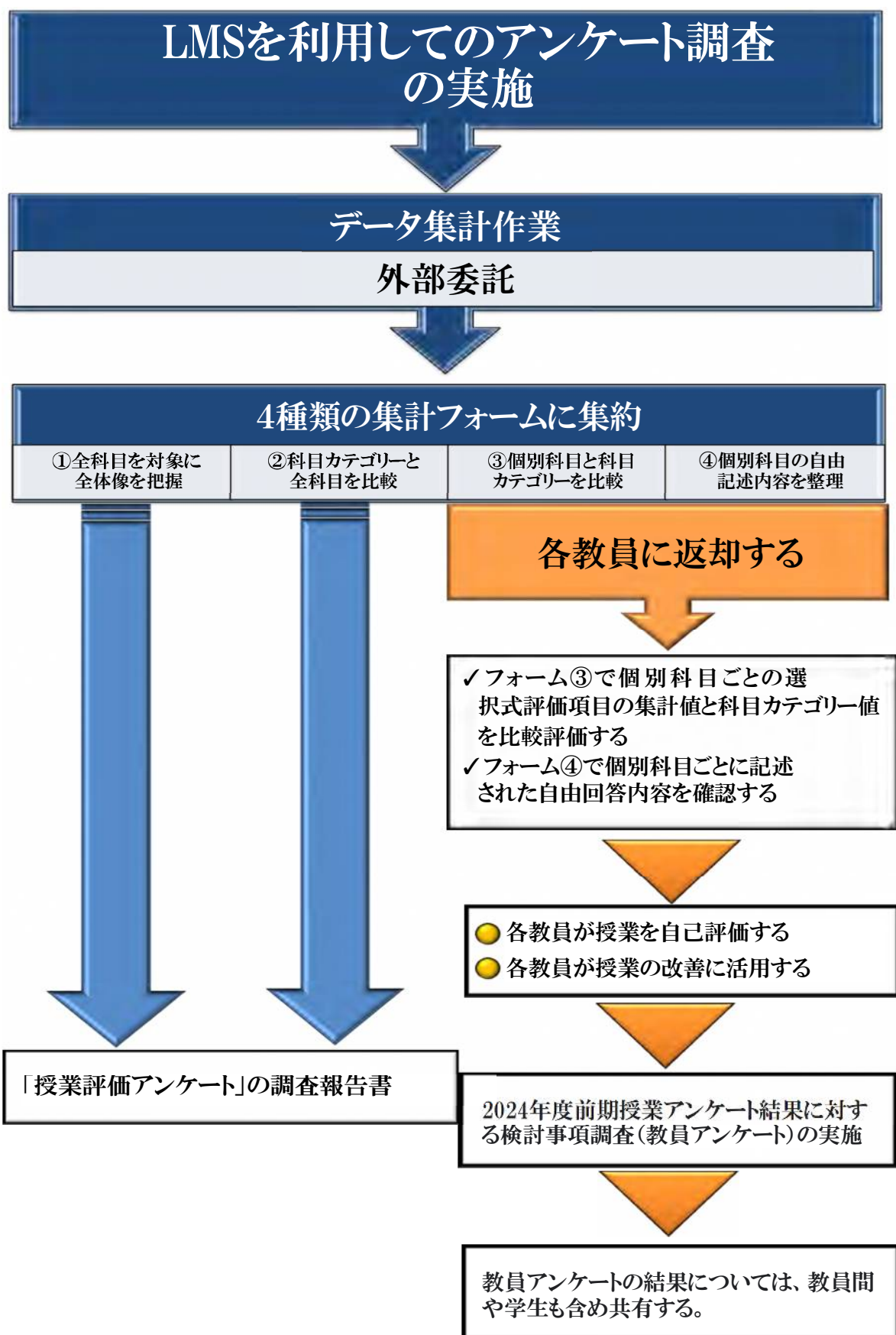
- 5 良い
- 4 どちらかといえば良い
- 3 どちらともいえない
- 2 どちらかといえば良くない
- 1 良くない

Q14. この科目の授業内容・方法について良かった点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

Q15. この科目の授業内容・方法について改善を望む点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

5. 調査結果の集計・分析と授業改善に向けた結果の活用について

既述したように、この調査の目的は各授業の成果・効果・到達点、さらに改善点などについて、学生から提供された授業の評価データを全科目、科目カテゴリー、教員個々を単位にして集計・分析し、結果を授業の自己点検・自己評価、授業改善のための参考資料として活用することにあります。今回のアンケート調査結果と授業改善に向けた活用の仕組みは以下の通りです。



6. 教員返却用集計フォーム

各教員に返却された前ページの集計フォーム③、④のサンプルを以下に掲げます。

授業アンケート結果集計表

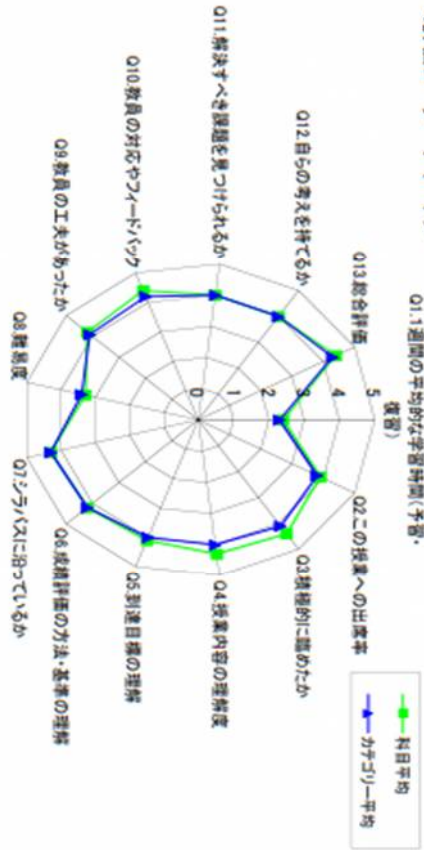
教員名		履修者数	40名
科目名		回収数	34枚
カテゴリー	(5) 専門関連科目	回収率	85.0 %

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。

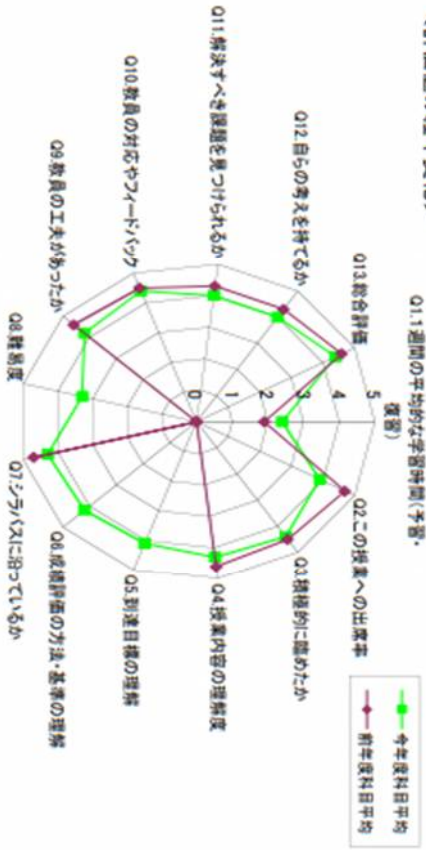
質問内容	上段: 平均値					下段: 標準偏差				
	5	4	3	2	1	当科目カテゴリー				
01. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	0 0.0%	8 23.5%	4 11.8%	17 50.0%	5 14.7%	2.4 1.01	2.3 1.02			
02. この授業への出席率	7 20.6%	16 47.1%	10 29.4%	1 2.9%	0 0.0%	3.9 0.77	3.8 0.81			
03. 積極的に臨めたか	17 50.0%	14 41.2%	3 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	4.4 0.65	4.1 0.97			
04. 授業内容の理解度	15 44.1%	13 38.2%	6 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	4.3 0.74	4.0 1.02			
05. 到達目標の理解	14 41.2%	11 32.4%	8 23.5%	0 0.0%	1 2.9%	4.1 0.95	4.0 1.06			
06. 成績評価の方法・基準の理解	18 52.9%	10 29.4%	2 5.9%	2 5.9%	2 5.9%	4.2 1.15	4.2 1.00			
07. シラバスに沿っているか	16 47.1%	12 35.3%	6 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	4.3 0.75	4.3 0.91			
08. 難易度	1 2.9%	8 23.5%	24 70.6%	1 2.9%	0 0.0%	3.3 0.56	3.4 0.71			
09. 教員の工夫があったか	16 47.1%	12 35.3%	4 11.8%	1 2.9%	1 2.9%	4.2 0.96	4.1 0.99			
010. 教員の対応やフィードバック	17 50.0%	14 41.2%	2 5.9%	1 2.9%	0 0.0%	4.4 0.73	4.2 1.00			
011. 解決すべき課題を見つげられるか	13 38.2%	11 32.4%	9 26.5%	0 0.0%	1 2.9%	4.0 0.95	4.0 1.03			
012. 自らの考えを持てるか	14 41.2%	11 32.4%	6 17.6%	2 5.9%	1 2.9%	4.0 1.04	4.0 1.05			
013. 総合評価	18 52.9%	12 35.3%	2 5.9%	2 5.9%	0 0.0%	4.4 0.84	4.3 0.97			

2024年度前期 北海商科大学

<評価シートチャート>



<評価値の経年変化>



自由記述一覧

2024年度後期 北海商科大学

教員名	○○○○
科目名	▲▲▲▲

Q14 この科目の授業内容・方法について良かった点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

項 番	内 容
1	授業内容はとても難しいが、面白いと感じれた
2	自らで課題を発見する能力、またその課題を解決する能力が身に付いた。
3	グループワークメインで自分たちの興味あることを調べられるので、大学で勉強してるという実感が湧きます。チーム一体となることができるので、とても面白い講義です。後輩におすすめ!
4	先生のサポートが手厚く、自身の問題点を発見したり、技術が成長したりして、とても充実した時間を過ごすことができた。生徒一人ひとりに対して真摯に向き合ってくれた。

Q15 この科目の授業内容・方法について改善を望む点があれば記入してください。※特にない場合は空欄のまま提出してください。

項 番	内 容
1	意見がありませんでした。



II. 集計結果について

1. 全科目の単純集計結果について

ここでの集計表は、評価項目別の回答結果を単純に集計したものです。表では評価値として平均値を算出していますが、これは評価項目別に回答結果を評価点（1～5点）で加重平均したものです。また平均値の下段の標準偏差は、回答のバラツキの大小を表しています。各評価項目の平均値は「5」に近ければ良好な評価となり、標準偏差は小さければ回答のバラツキが小さいことを表します。したがって、評価平均値が「5」に近く標準偏差が小さいほど優良な評価を意味することになります。一方、レーダーチャートに表示されている平均値では、評価項目別の評価の良否と全評価項目のバランスを同時に検討することができます。

前期において例年と比べて7割まで改善され、アンケートの精度はかなり高まったと考えられましたが、後期では前期に比べ回収率が1割近く低下してしまいました。引き続き、回収率の維持・向上の取り組みが求められます。

(1) 学生の受講姿勢（Q1.～Q3.）について

Q1.～Q3. までは、学生の授業に対する受講姿勢に関する質問です。「Q1. 一週間の平均的な学習時間（予習・復習）」については昨年度よりもわずかですが向上が見られます。ただし、約9割の学生が「2時間未満」であるのは残念です。細かく分析すると、前期同様に、勉強する層としない層との差がついていました。クロス集計を見ると、「授業内容の理解度」について「理解できない」と回答した学生では、「1時間未満」・「全くしていない」と回答した学生の割合が多いことが見てとれます。

また、「Q2. この授業への出席率」に関して、前年度平均値と比べ、大幅に下がってしまいましたが、選択肢の内容を変更した結果です。具体的には、昨年までは「5 80%以上」「4 60%以上」…との選択肢でしたが、今回は「5 全て出席」「4 9割程度」…となっており、出席率が同じでも平均値が低く出る選択肢となっています。この点をふまえると、学生の授業への出席率は昨年と大きく変わらないと考えられます。

上記で分析したことと関連すると思われるのが、「Q3. 積極的に臨めたか」の結果です。積極性に欠けたことになる割合は1割にも満たず、多くの学生が講義やゼミナールに対して積極的に参加したことがうかがえます。

傾向としては、授業にきちんと出席し積極的に参加する学生が大多数である一方、予習・復習を通した学習時間を確保していない学生も多いことになります。授業外での学習時間が理解度と関連すると考えられ、単に授業に出席させるだけでなく、学習内容の定着を意識した課題の提示というものも求められます。

(2) 授業評価（Q4.～Q12.）について

9項目のうち8項目において、平均値は「4.0」を超え、標準偏差もほぼ「1.0」前後でした。前期において指摘した「Q12. 自らの考えを持てるか」についても標準偏差は「1.08」であり、前期同様の結果でしたが、必修の枠組みが外れる後期では、この項目で高い評価を得づらい語学授業でも学生が自ら選択して履修していることもあり、高い平均値を示しています。そのため、全科目平均値としては「4.0」という値を得ることができたと考えられます。唯一「3.3」であった質問は「Q8. 難易度」についてであり、これは高すぎるとかえって学生にとって難しすぎるということであり、普通からやや難しいことを意味する「3.5」前後が理想的と想定されます。授業評価においてはおおむねよい評価を得ているといえるでしょう。詳しい分析は各科目カテゴリーにてなされます。

(3) 総合評価（Q13.）について

今年度から加えた項目であり、授業の総合評価を5段階で問うというもっともシンプルな設問となります。後期においても「5 良い」53.1%、「4 どちらかといえば良い」29.7%となり、圧倒的に評価を得ていることを示しています。「2 どちらかといえば良くない」「1 良くない」を選んだ学生は4.6%だけであり、全体としてみれば本学の授業は学生から支持されて

いると言ってよいでしょう。

(4) 自由記述 (Q14. Q15) について

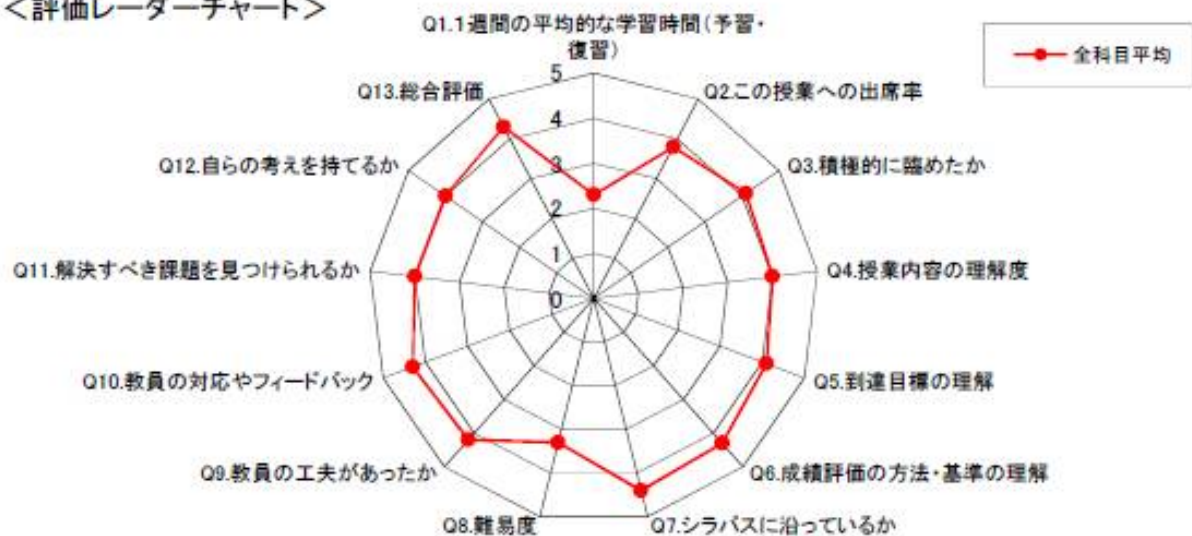
自由記述欄への回答に関しては全体で285件の回答がありました。そのうち「Q14. この科目の授業内容・方法について良かった点」については162件、「Q15. この科目の授業内容・方法について改善を望む点」については123件です。これらの回答内容については、後述の科目カテゴリー別のアンケート結果欄において個別にコメントされます。

なお、既述の通りこれら自由回答欄の内容は「集計フォーム④」として整理され、「集計フォーム③」とともに各科目の担当教員に返却されており、今後の授業改善に向けた参考資料として活用されます。その後、2024年度後期授業アンケート結果に対する検討事項調査（教員アンケート）を実施し、その結果を教員間および学生も含めて情報共有し、教員のFD向上さらには学生の勉学の向上のための基礎資料として利活用していきます。

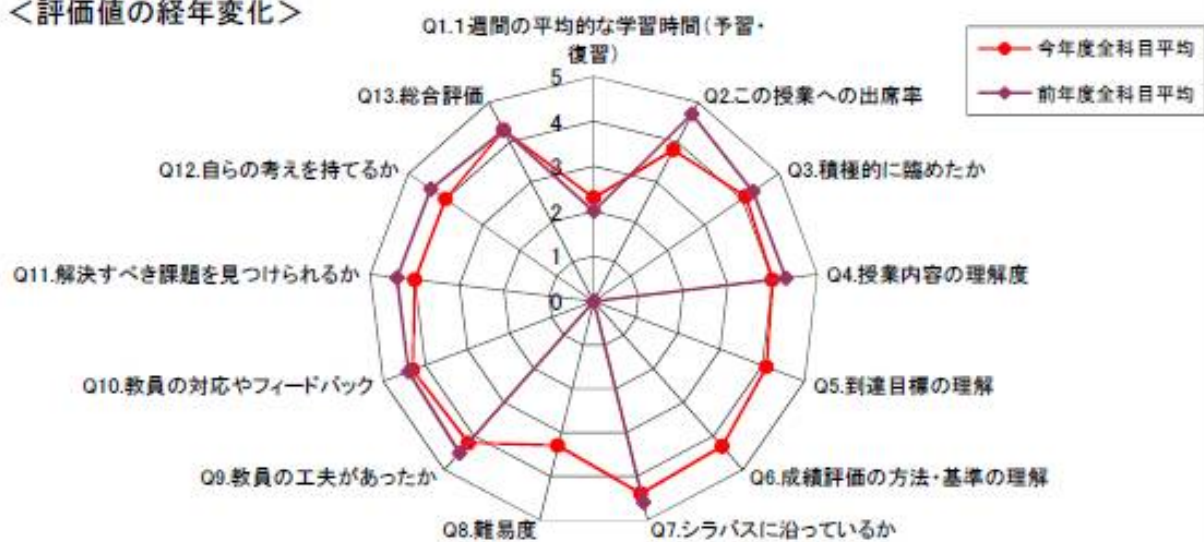
項目別回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。 上段:平均値 下段:標準偏差

質 問 内 容	5	4	3	2	1	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	78 2.8%	235 8.5%	735 26.6%	1089 39.3%	631 22.8%	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	585 21.1%	1248 45.1%	844 30.5%	68 2.5%	23 0.8%	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	1170 42.3%	1033 37.3%	401 14.5%	109 3.9%	55 2.0%	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	1054 38.1%	1067 38.5%	425 15.4%	161 5.8%	61 2.2%	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	1200 43.4%	925 33.4%	426 15.4%	150 5.4%	67 2.4%	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	1529 55.2%	800 28.9%	295 10.7%	97 3.5%	47 1.7%	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	1690 61.1%	739 26.7%	257 9.3%	46 1.7%	36 1.3%	4.4 0.83
Q8. 難易度	157 5.7%	727 26.3%	1801 65.1%	74 2.7%	9 0.3%	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	1298 46.9%	895 32.3%	410 14.8%	101 3.6%	64 2.3%	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	1463 52.9%	764 27.6%	412 14.9%	76 2.7%	53 1.9%	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	1077 38.9%	881 31.8%	562 20.3%	154 5.6%	94 3.4%	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	1091 39.4%	884 31.9%	533 19.3%	151 5.5%	109 3.9%	4.0 1.08
Q13. 総合評価	1470 53.1%	823 29.7%	348 12.6%	79 2.9%	48 1.7%	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



2. 各科目カテゴリの単純集計結果について

ここからは、科目カテゴリごとに全科目との比較を通して単純集計結果を検討します。

<異文化交流科目：語学>

異文化交流科目のうち、「社会と文化」についての科目の中で、語学が対象です。「評価リーダーチャート」の全科目平均と比較では、ほぼ平均よりも上回り、「Q4. 授業内容の理解度」については0.5ポイント上回っています。語学が1年時必修から外れるのが後期であり、興味関心がある学生が受講したという要因が大きく関わっていると考えられます。「自由記述」に関する記述からは、課題量が多く、他科目との両立が大変だったという声もありましたが、同時に学習の楽しさや頑張ったことが結果につながっている実感についての声も見られ、それらが高い評価に結びついていることが伺えます。どの語学でも教員が学生に親しみと工夫をもって接していることが伺え、他の科目でも見習うべき点が多いと思われます。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。						上段:平均値	下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリ	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	8 8.4%	16 16.8%	42 44.2%	26 27.4%	3 3.2%	3.0	2.3
Q2. この授業への出席率	30 31.6%	40 42.1%	22 23.2%	3 3.2%	0 0.0%	4.0	3.8
Q3. 積極的に臨めたか	62 65.3%	25 26.3%	5 5.3%	2 2.1%	1 1.1%	4.5	4.1
Q4. 授業内容の理解度	53 55.8%	34 35.8%	7 7.4%	1 1.1%	0 0.0%	4.5	4.0
Q5. 到達目標の理解	55 57.9%	30 31.6%	5 5.3%	2 2.1%	3 3.2%	4.4	4.1
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	58 61.1%	27 28.4%	5 5.3%	2 2.1%	3 3.2%	4.4	4.3
Q7. シラバスに沿っているか	65 68.4%	22 23.2%	8 8.4%	0 0.0%	0 0.0%	4.6	4.4
Q8. 難易度	3 3.2%	28 29.5%	59 62.1%	5 5.3%	0 0.0%	3.3	3.3
Q9. 教員の工夫があったか	60 63.2%	25 26.3%	7 7.4%	2 2.1%	1 1.1%	4.5	4.2
Q10. 教員の対応やフィードバック	64 67.4%	21 22.1%	8 8.4%	1 1.1%	1 1.1%	4.5	4.3
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	43 45.3%	34 35.8%	13 13.7%	2 2.1%	3 3.2%	4.2	4.0
Q12. 自らの考えを持てるか	47 49.5%	28 29.5%	14 14.7%	2 2.1%	4 4.2%	4.2	4.0
Q13. 総合評価	59 62.1%	26 27.4%	6 6.3%	2 2.1%	2 2.1%	4.5	4.3

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

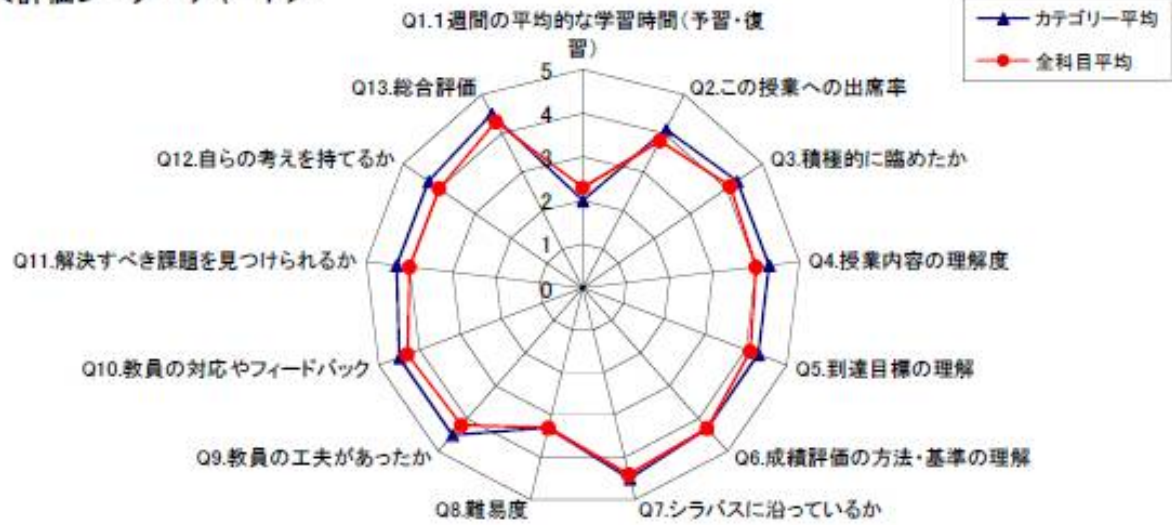


<異文化交流科目：社会と文化（異文化ゼミナール）>

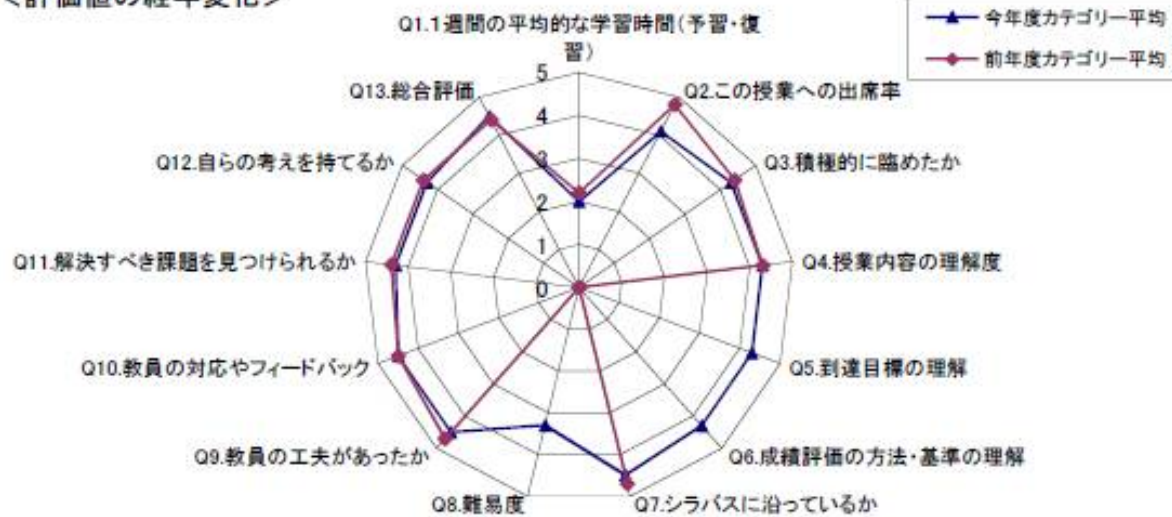
異文化交流科目のうち異文化ゼミナールに対する「授業評価」の傾向は、「評価リーダーチャート」の全科目平均と比較すると、多くの項目で平均と同じ、または若干上回っていました。唯一、「Q1. 1週間の平均的な学習時間」の項目が下回っていました。担当教員ごとに授業内容や方法が異なるものであり、それらを平均した結果であることを踏まえなければなりません。前年度と比較するとほぼ全項目において同じような結果でしたが、「自由記述」においては、フィードバックやグループワークなど能動的な取り組みに対する満足度の高さが伺えました。少人数のゼミナール形式に慣れてもらうことが専門ゼミナールへの移行をスムーズにすると思われるので、引き続き、学生募集時に多くの学生が興味を引くような講義展開が望まれます。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
							下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	2 1.8%	8 7.1%	18 16.1%	45 40.2%	39 34.8%	2.0 0.98	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	43 38.4%	45 40.2%	21 18.8%	0 0.0%	3 2.7%	4.1 0.89	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	61 54.5%	33 29.5%	12 10.7%	4 3.6%	2 1.8%	4.3 0.93	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	60 53.6%	33 29.5%	14 12.5%	3 2.7%	2 1.8%	4.3 0.91	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	61 54.5%	36 32.1%	10 8.9%	3 2.7%	2 1.8%	4.3 0.88	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	61 54.5%	35 31.3%	11 9.8%	4 3.6%	1 0.9%	4.3 0.86	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	73 65.2%	26 23.2%	9 8.0%	3 2.7%	1 0.9%	4.5 0.82	4.4 0.83
Q8. 難易度	6 5.4%	22 19.6%	84 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	3.3 0.56	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	74 66.1%	26 23.2%	9 8.0%	3 2.7%	0 0.0%	4.5 0.76	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	77 68.8%	22 19.6%	11 9.8%	1 0.9%	1 0.9%	4.5 0.78	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	59 52.7%	33 29.5%	16 14.3%	3 2.7%	1 0.9%	4.3 0.87	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	63 56.3%	32 28.6%	12 10.7%	3 2.7%	2 1.8%	4.3 0.90	4.0 1.08
Q13. 総合評価	70 62.5%	30 26.8%	9 8.0%	1 0.9%	2 1.8%	4.5 0.82	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

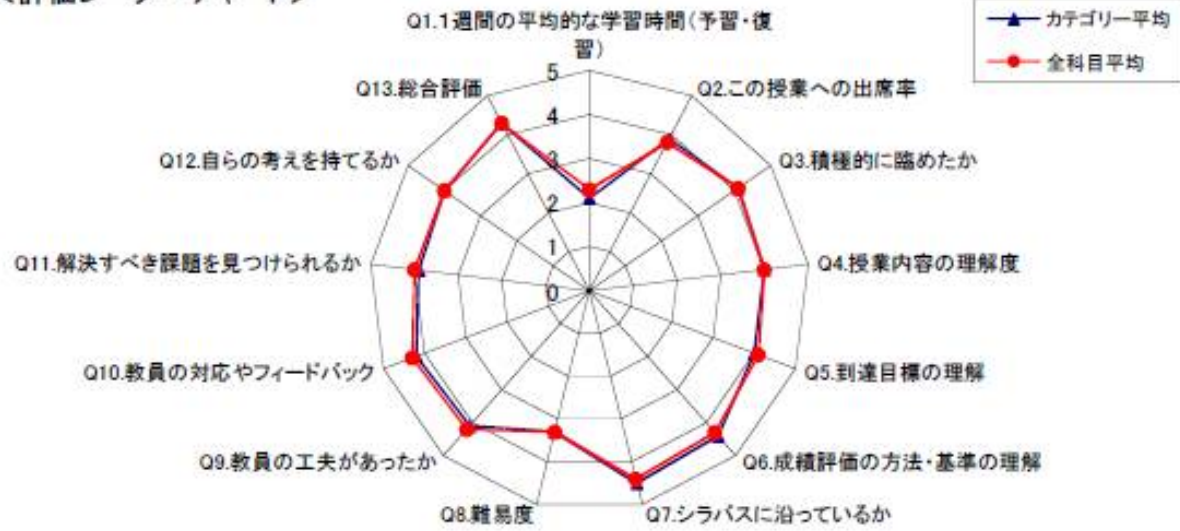


< 異文化交流科目：社会と文化（異文化ゼミナール以外） >

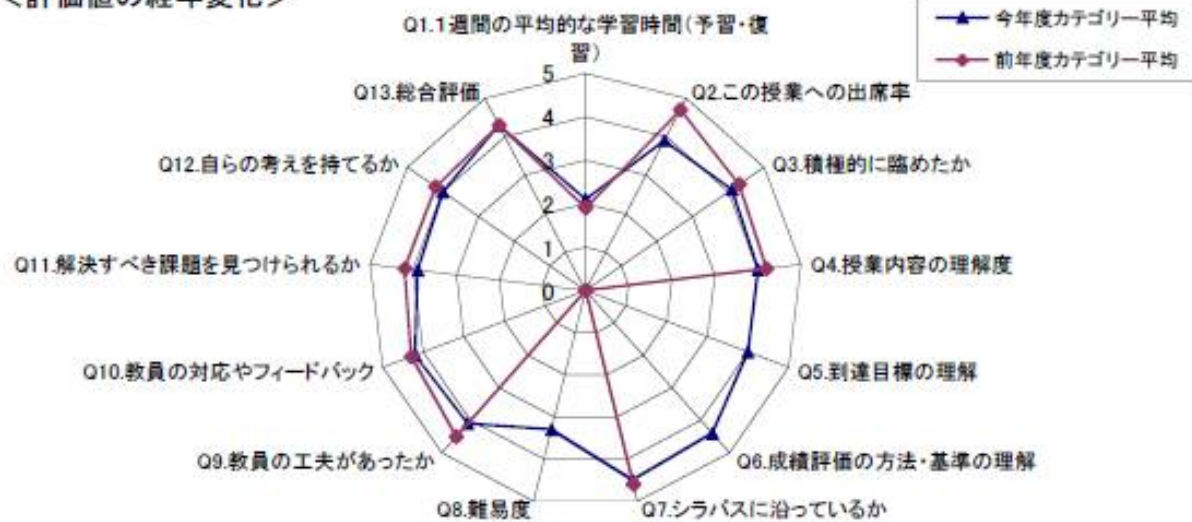
異文化交流科目のうち、「異文化ゼミナール」以外の「社会と文化」についての科目であり、講義形式の授業です。「評価レーダーチャート」の全科目平均と比較した場合、多くの項目で同様の結果でした。「評価値の経年変化」において、前年度と同じ項目では、前年度の方が上回っている傾向が見られます。標準偏差から考えると、講義間の差異、または個人差の範囲の値であり、昨年度と差異があるとは言えない結果であるものの、前年度より良い授業をするための改善を意識することは引き続き必要でしょう。自由記述については、「わかりやすい」など好意的な評価が多く見られました。質問への対応、資料の提示、補足説明などを含め、受講者の学習成果を高めるための各教員の取り組みは受講者に伝わっているものと思われます。一方で、声の大きさ、板書の見やすさや授業形態、評価の仕方についての指摘もありました。個人的な主張の範囲の記述も見られましたが、改善できるところは指摘を受け入れて欲しいと思います。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
							下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	21 2.6%	61 7.7%	149 18.7%	339 42.5%	227 28.5%	2.1 1.00	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	180 22.6%	359 45.0%	233 29.2%	14 1.8%	11 1.4%	3.9 0.83	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	317 39.8%	300 37.6%	135 16.9%	24 3.0%	21 2.6%	4.1 0.96	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	265 33.2%	335 42.0%	129 16.2%	45 5.6%	23 2.9%	4.0 0.99	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	299 37.5%	281 35.3%	146 18.3%	44 5.5%	27 3.4%	4.0 1.04	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	441 55.3%	238 29.9%	86 10.8%	20 2.5%	12 1.5%	4.4 0.88	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	486 61.0%	214 26.9%	76 9.5%	12 1.5%	9 1.1%	4.5 0.82	4.4 0.83
Q8. 難易度	48 6.0%	185 23.2%	543 68.1%	17 2.1%	4 0.5%	3.3 0.64	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	341 42.8%	273 34.3%	143 17.9%	25 3.1%	15 1.9%	4.1 0.94	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	399 50.1%	237 29.7%	133 16.7%	17 2.1%	11 1.4%	4.2 0.90	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	279 35.0%	263 33.0%	187 23.5%	42 5.3%	26 3.3%	3.9 1.04	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	301 37.8%	262 32.9%	162 20.3%	41 5.1%	31 3.9%	4.0 1.07	4.0 1.08
Q13. 総合評価	430 54.0%	255 32.0%	81 10.2%	19 2.4%	12 1.5%	4.3 0.87	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

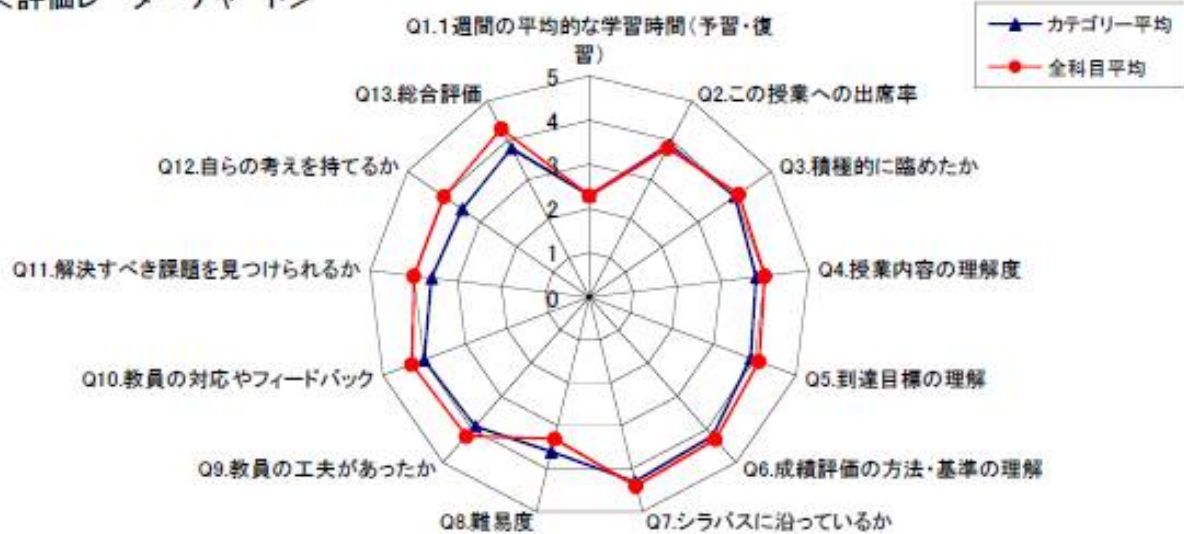


< 専門基礎科目 >

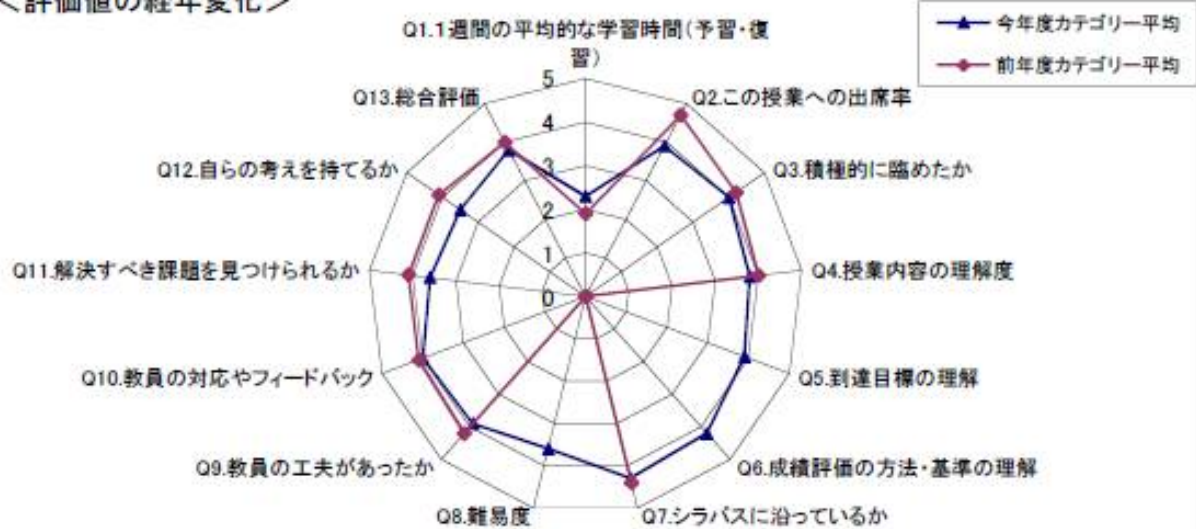
専門基礎科目は全科目（経済システム理論Ⅱ、経済と社会の仕組みⅡ、コンピューター・リテラシーⅡ）が必修科目となっています。またいずれも、複数教員が分担する形で講義を実施しています。「評価リーダーチャート」を見ると、専門基礎科目では全科目平均の評価を下回る項目が多くなっています。Q11、Q12など応用科目やゼミで高い評価が得られる傾向のある項目の評価が低くなっていますが、3年次以降の学習内容の基盤となるような科目であるためと考えられます。一方で、Q9、Q10の教員の工夫や対応に関する項目の評価が全科目平均よりも低くなっており、教員には授業方法改善が望まれます。自由記述欄を見ると、良かった点として、オムニバス形式の講義の導入、課題に対する丁寧な解説、達成すべき課題の明確化などがあげられていました。学生の理解を増進する工夫を引き続き取り入れていくとともに、丁寧な対応を心掛けることが学生の理解度・満足度を高めるために有効と考えられます。今後、改善してほしい点として、同じ科目でもクラス（教員）によって出席確認、試験の方法が異なる点、manabaでの連絡方法の改善、教員-学生間のコミュニケーションのあり方などが指摘されています。複数教員が担当する講義では教員（クラス）による試験の難易度の違いなどの不公平感の解消に取り組んでいますが、引き続き取り組みの強化が必要だと思われます。また、コミュニケーションの問題についても、教員の側から歩み寄りより丁寧な対応をとる必要が示唆されます。

回答分布（人数と平均値・標準偏差） ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段：平均値 下段：標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間（予習・復習）	5 1.4%	30 8.5%	107 30.2%	124 35.0%	88 24.9%	2.3 0.97	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	79 22.3%	164 46.3%	99 28.0%	8 2.3%	4 1.1%	3.9 0.82	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	122 34.5%	142 40.1%	56 15.8%	20 5.6%	14 4.0%	4.0 1.04	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	110 31.1%	122 34.5%	67 18.9%	37 10.5%	18 5.1%	3.8 1.15	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	129 36.4%	121 34.2%	60 16.9%	32 9.0%	12 3.4%	3.9 1.09	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	169 47.7%	112 31.6%	42 11.9%	23 6.5%	8 2.3%	4.2 1.02	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	192 54.2%	111 31.4%	36 10.2%	6 1.7%	9 2.5%	4.3 0.91	4.4 0.83
Q8. 難易度	36 10.2%	151 42.7%	159 44.9%	6 1.7%	2 0.6%	3.6 0.71	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	131 37.0%	118 33.3%	70 19.8%	17 4.8%	18 5.1%	3.9 1.10	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	145 41.0%	112 31.6%	65 18.4%	15 4.2%	17 4.8%	4.0 1.09	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	104 29.4%	95 26.8%	93 26.3%	38 10.7%	24 6.8%	3.6 1.20	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	97 27.4%	93 26.3%	103 29.1%	29 8.2%	32 9.0%	3.5 1.23	4.0 1.08
Q13. 総合評価	114 32.2%	120 33.9%	83 23.4%	26 7.3%	11 3.1%	3.8 1.05	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



< 専門関連科目 >

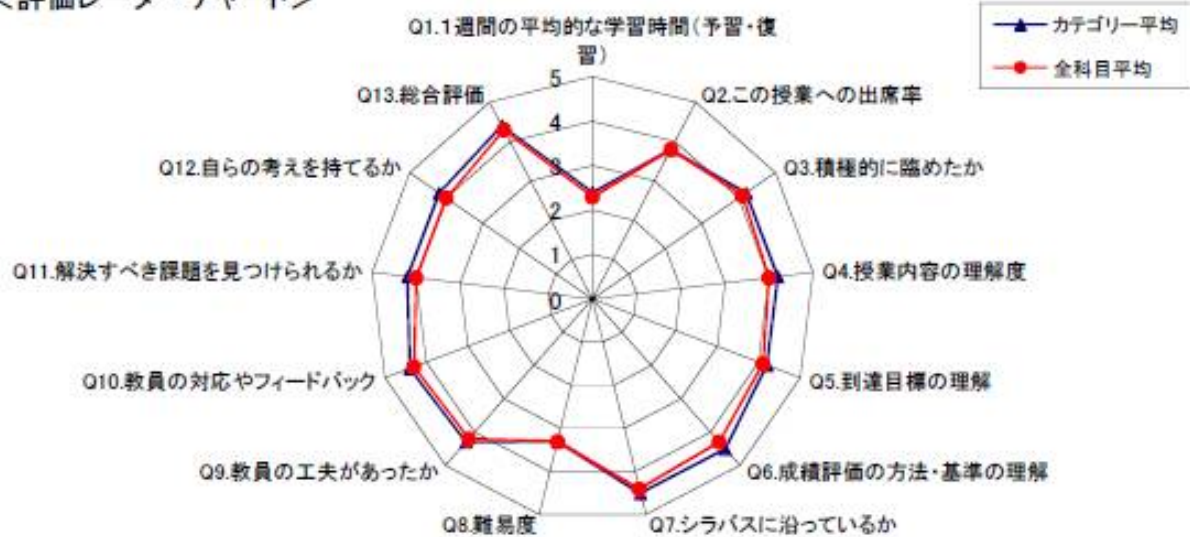
専門関連科目は、商学科・観光産業学科の専門科目に関連した科目となっており、幅広い内容の科目が含まれています。「評価レーダーチャート」を見ると、専門関連科目の評価は、全科目平均とほぼ一致しているか、若干上回っています。「評価値の経年変化」については、今回から質問項目や選択肢が変わったため、結果の解釈は次回以降に行いたいと思います。

自由記述欄を見ると、良かった点として、丁寧な対応、説明のわかりやすさ、学習モチベーションを維持する工夫などがあげられていました。一方で、今後、改善してほしい点として、板書や説明のスピード、資料の配布、講義時間の遵守など様々な観点からの指摘がありました。教員は各講義の授業アンケート結果に基づいた対応が必要と考えられます。

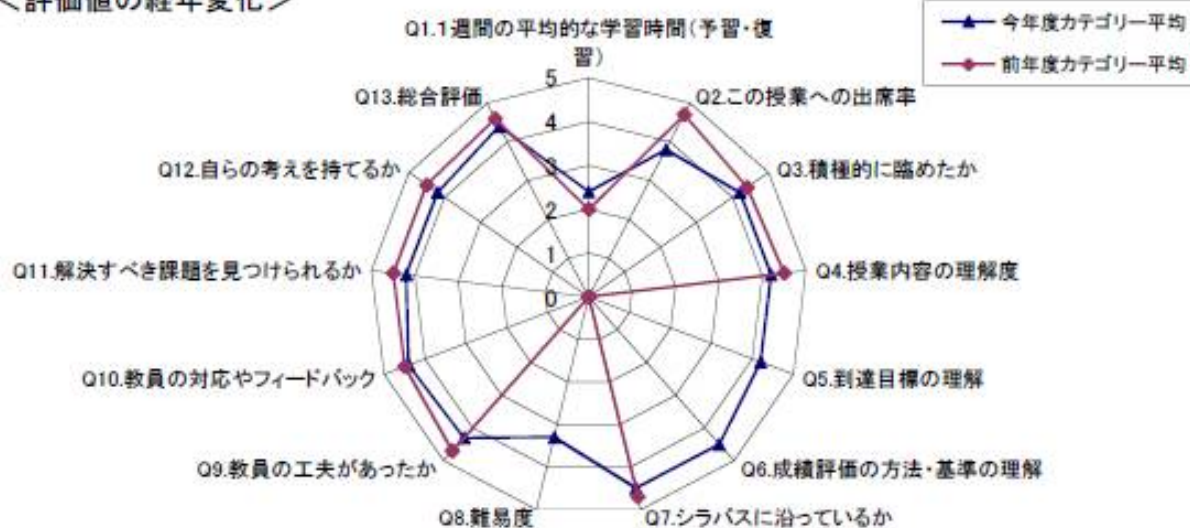
回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。

質問内容						上段:平均値	下段:標準偏差
	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	12 3.0%	37 9.4%	117 29.7%	163 41.4%	65 16.5%	2.4 0.97	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	65 16.5%	182 46.2%	134 34.0%	13 3.3%	0 0.0%	3.8 0.76	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	168 42.6%	157 39.8%	56 14.2%	9 2.3%	4 1.0%	4.2 0.84	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	159 40.4%	167 42.4%	53 13.5%	10 2.5%	5 1.3%	4.2 0.85	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	181 45.9%	134 34.0%	58 14.7%	17 4.3%	4 1.0%	4.2 0.91	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	244 61.9%	103 26.1%	36 9.1%	5 1.3%	6 1.5%	4.5 0.83	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	255 64.7%	95 24.1%	36 9.1%	5 1.3%	3 0.8%	4.5 0.77	4.4 0.83
Q8. 難易度	13 3.3%	99 25.1%	269 68.3%	12 3.0%	1 0.3%	3.3 0.59	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	204 51.8%	119 30.2%	55 14.0%	13 3.3%	3 0.8%	4.3 0.88	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	241 61.2%	84 21.3%	56 14.2%	12 3.0%	1 0.3%	4.4 0.86	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	183 46.4%	119 30.2%	70 17.8%	17 4.3%	5 1.3%	4.2 0.95	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	183 46.4%	121 30.7%	70 17.8%	16 4.1%	4 1.0%	4.2 0.93	4.0 1.08
Q13. 総合評価	243 61.7%	95 24.1%	44 11.2%	10 2.5%	2 0.5%	4.4 0.83	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



< 商学科専門科目 >

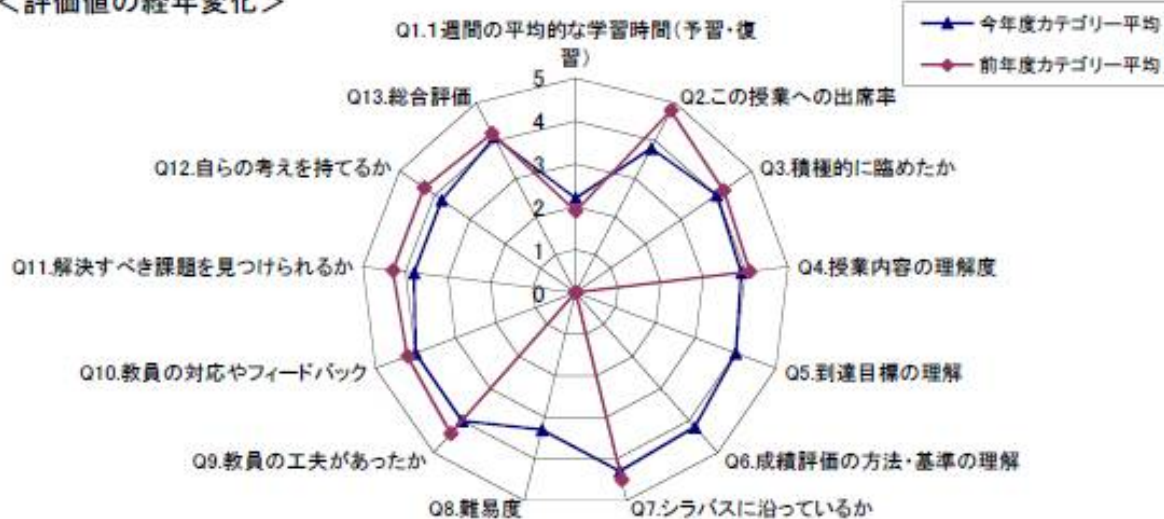
「評価レーダーチャート」より、カテゴリー平均は、全科目平均よりも若干下回る傾向が見て取れます。特に、「Q9. 教員の工夫があったか」、「Q10. 教員の対応やフィードバック」、「Q11. 解決すべき課題を見つけられるか」、「Q12. 自らの考えを持てるか」などの、カテゴリー平均の低さが目立ちます。「評価値の経年変化」より、昨年度カテゴリー平均に比して今年度カテゴリー平均は概ね下回っています。全科目平均とカテゴリー平均を比較した場合と同様、「Q9. 教員の工夫があったか」、「Q10. 教員の対応やフィードバック」、「Q11. 解決すべき課題を見つけられるか」、「Q12. 自らの考えを持てるか」の低下が目立っています。ここで評価の低かったQ.9、Q.10、Q.11などは「観光産業学科専門科目」では高評価を得ており、参考に資すると思われます。自由記述欄において、「良かった点」は、20件ありました。また、「改善して欲しい点」も20件あり、「授業の関係のない話」や「授業時間内のペース配分」に対する不満が目立ちました。また、例年にはない「教員都合での休講が続いたことによる評価への不安」という回答へは対応が必要と判断します。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値	下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目	
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	9 2.1%	25 5.7%	111 25.3%	175 39.9%	119 27.1%	2.2 0.96	2.3 1.00	
Q2. この授業への出席率	84 19.1%	198 45.1%	136 31.0%	19 4.3%	2 0.5%	3.8 0.82	3.8 0.81	
Q3. 積極的に臨めたか	179 40.8%	146 33.3%	72 16.4%	34 7.7%	8 1.8%	4.0 1.02	4.1 0.94	
Q4. 授業内容の理解度	149 33.9%	151 34.4%	83 18.9%	47 10.7%	9 2.1%	3.9 1.06	4.0 0.98	
Q5. 到達目標の理解	181 41.2%	140 31.9%	76 17.3%	30 6.8%	12 2.7%	4.0 1.05	4.1 1.01	
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	234 53.3%	121 27.6%	50 11.4%	22 5.0%	12 2.7%	4.2 1.02	4.3 0.92	
Q7. シラバスに沿っているか	242 55.1%	127 28.9%	49 11.2%	12 2.7%	9 2.1%	4.3 0.92	4.4 0.83	
Q8. 難易度	26 5.9%	104 23.7%	290 66.1%	17 3.9%	2 0.5%	3.3 0.66	3.3 0.64	
Q9. 教員の工夫があったか	170 38.7%	147 33.5%	76 17.3%	26 5.9%	20 4.6%	4.0 1.10	4.2 0.97	
Q10. 教員の対応やフィードバック	179 40.8%	135 30.8%	89 20.3%	18 4.1%	18 4.1%	4.0 1.07	4.3 0.94	
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	144 32.8%	138 31.4%	95 21.6%	36 8.2%	26 5.9%	3.8 1.16	4.0 1.06	
Q12. 自らの考えを持てるか	140 31.9%	140 31.9%	95 21.6%	40 9.1%	24 5.5%	3.8 1.16	4.0 1.08	
Q13. 総合評価	201 45.8%	136 31.0%	72 16.4%	17 3.9%	13 3.0%	4.1 1.01	4.3 0.92	

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

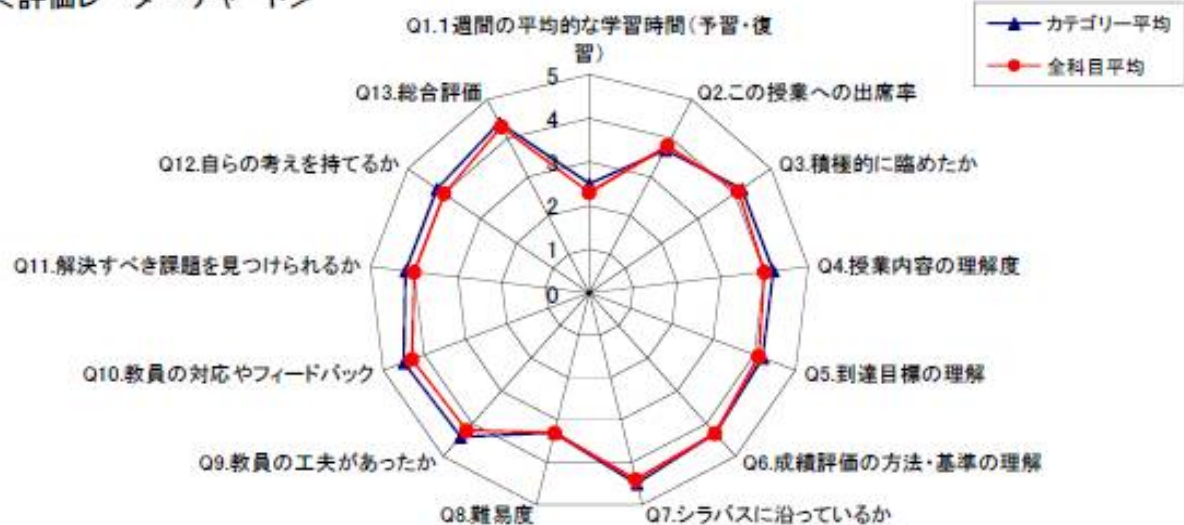


< 観光産業学科専門科目 >

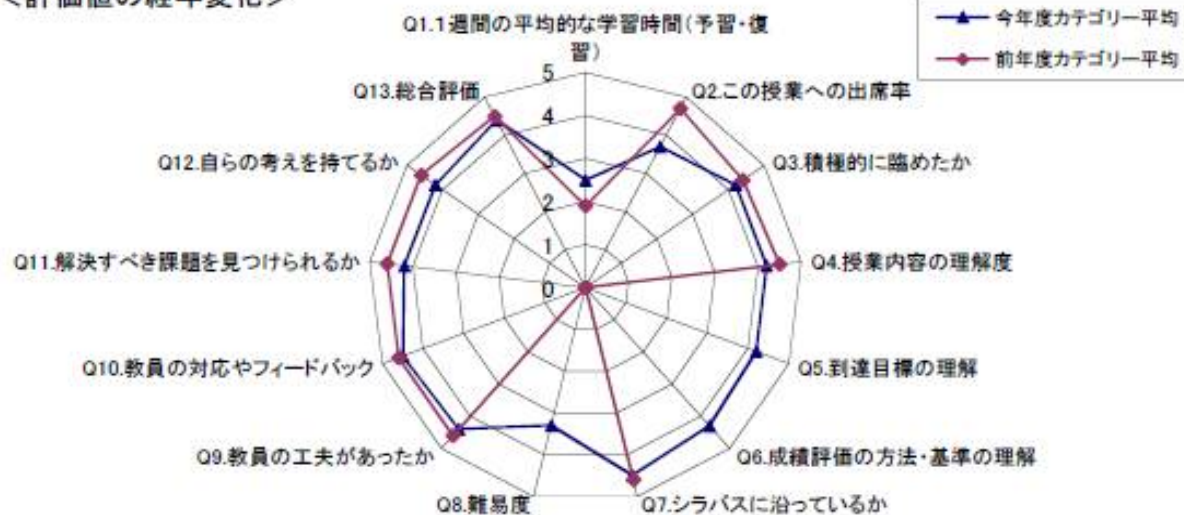
「評価レーダーチャート」より、カテゴリー平均は、ほぼすべての項目において全科目平均よりも高い結果となりました。「Q4. 授業内容の理解度」、「Q9. 教員の工夫があったか」、「Q11. 教員の対応のフィードバック」、「Q11. 解決すべき課題を見つけられるか」などが高い評価を得ています。一方で、「評価値の経年変化」でみると、多くの項目が前年度カテゴリー平均よりも下回っており、注意が必要です。自由記述欄において、「良かった点」は、37件ありました。グループワークを取り入れた授業方法が評価されていました。また、「改善して欲しい点」は28件あり、進行速度、評価方法、教室環境など、多岐にわたりましたが、これらの大半は個々の教員による改善により解消できる内容が多かったです。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
							下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	17 4.8%	36 10.1%	108 30.3%	132 37.0%	64 17.9%	2.5 1.05	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	55 15.4%	162 45.4%	132 37.0%	5 1.4%	3 0.8%	3.7 0.76	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	149 41.7%	150 42.0%	45 12.6%	11 3.1%	2 0.6%	4.2 0.82	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	148 41.5%	147 41.2%	49 13.7%	11 3.1%	2 0.6%	4.2 0.83	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	161 45.1%	123 34.5%	50 14.0%	18 5.0%	5 1.4%	4.2 0.94	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	183 51.3%	108 30.3%	45 12.6%	19 5.3%	2 0.6%	4.3 0.91	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	233 65.3%	90 25.2%	29 8.1%	4 1.1%	1 0.3%	4.5 0.72	4.4 0.83
Q8. 難易度	18 5.0%	88 24.6%	241 67.5%	10 2.8%	0 0.0%	3.3 0.61	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	194 54.3%	116 32.5%	32 9.0%	10 2.8%	5 1.4%	4.4 0.86	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	217 60.8%	103 28.9%	30 8.4%	6 1.7%	1 0.3%	4.5 0.74	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	154 43.1%	139 38.9%	50 14.0%	9 2.5%	5 1.4%	4.2 0.87	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	151 42.3%	145 40.6%	47 13.2%	11 3.1%	3 0.8%	4.2 0.84	4.0 1.08
Q13. 総合評価	210 58.8%	106 29.7%	34 9.5%	2 0.6%	5 1.4%	4.4 0.80	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

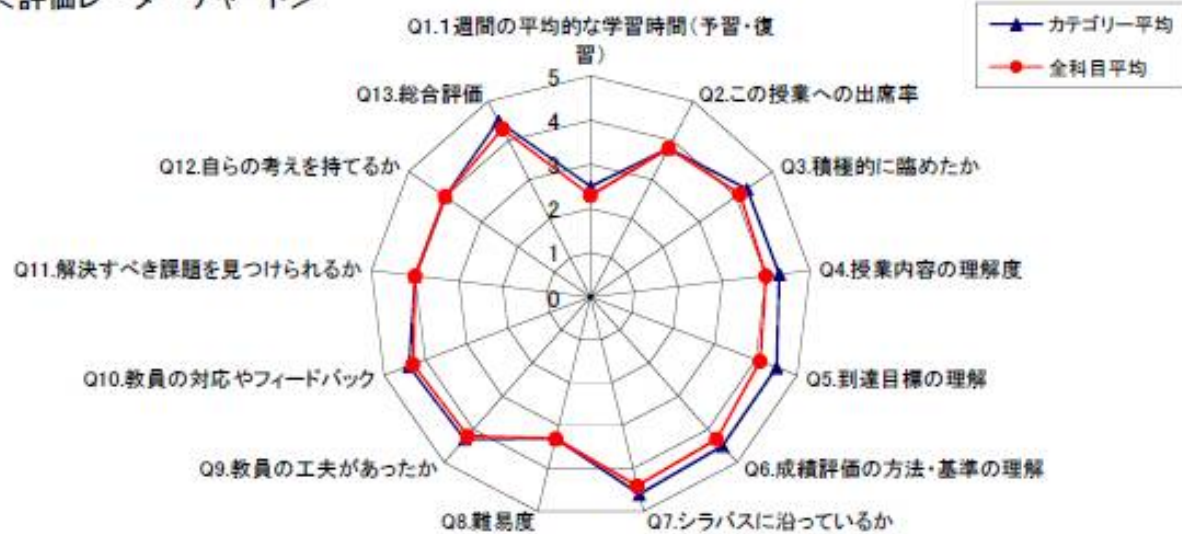


<専門キャリアアップ科目>

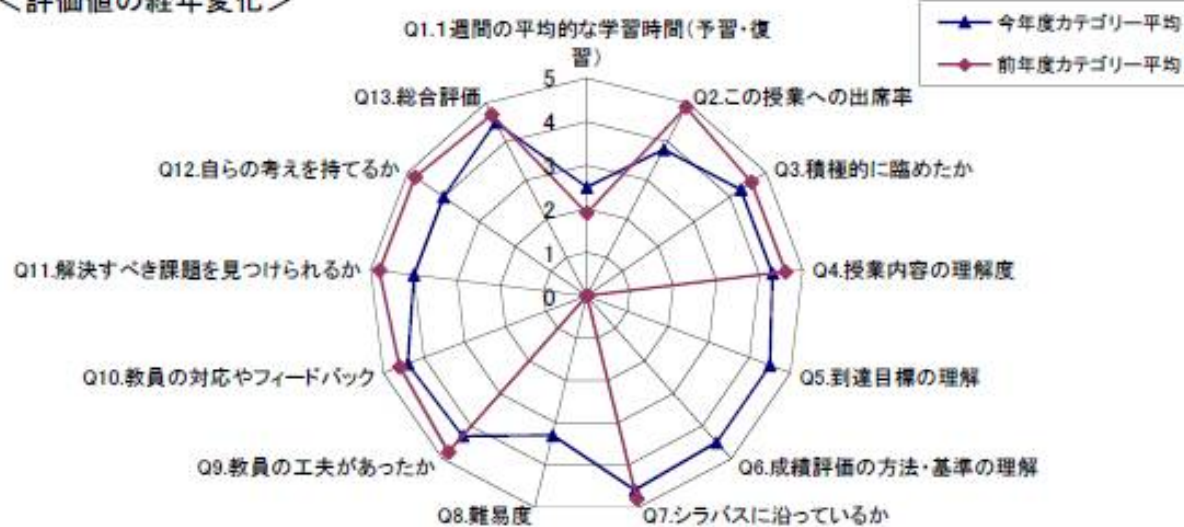
「評価レーダーチャート」より、カテゴリー平均は、全項目において全科目平均と同等以上の結果となりました。これは、昨年と同様の傾向です。このカテゴリーは資格試験を意識したキャリアアップを目指す科目群であり、学生は、比較的、意欲的に学習しているようです。「評価値の経年変化」を見ても、「1週間の平均的な学習時間」で昨年度比+0.6ポイントと大幅な増加となっていました。一方で、「この授業の出席率」や「授業内容の理解度」は、-0.3ポイント以上の下落を示していました。両方の向上を目指す工夫が必要になりそうです。なお、自由記述には、実践的な内容で、勉強になったことを評価するコメントが5件見られる一方、進度の遅さやテストの実施方法、授業中のトイレ利用の簡便性を求める声も3件ありました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値
質問内容							下段:標準偏差
質問内容	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	3 2.3%	11 8.3%	47 35.6%	54 40.9%	17 12.9%	2.5 0.90	2.3 1.00
Q2. この授業への出席率	28 21.2%	60 45.5%	39 29.5%	5 3.8%	0 0.0%	3.8 0.80	3.8 0.81
Q3. 積極的に臨めたか	64 48.5%	49 37.1%	13 9.8%	3 2.3%	3 2.3%	4.3 0.90	4.1 0.94
Q4. 授業内容の理解度	63 47.7%	50 37.9%	13 9.8%	6 4.5%	0 0.0%	4.3 0.82	4.0 0.98
Q5. 到達目標の理解	82 62.1%	35 26.5%	11 8.3%	3 2.3%	1 0.8%	4.5 0.80	4.1 1.01
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	88 66.7%	29 22.0%	11 8.3%	2 1.5%	2 1.5%	4.5 0.83	4.3 0.92
Q7. シラバスに沿っているか	93 70.5%	29 22.0%	5 3.8%	2 1.5%	3 2.3%	4.6 0.83	4.4 0.83
Q8. 難易度	5 3.8%	34 25.8%	89 67.4%	4 3.0%	0 0.0%	3.3 0.59	3.3 0.64
Q9. 教員の工夫があったか	69 52.3%	45 34.1%	13 9.8%	3 2.3%	2 1.5%	4.3 0.86	4.2 0.97
Q10. 教員の対応やフィードバック	76 57.6%	37 28.0%	12 9.1%	4 3.0%	3 2.3%	4.4 0.93	4.3 0.94
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	61 46.2%	31 23.5%	29 22.0%	7 5.3%	4 3.0%	4.0 1.08	4.0 1.06
Q12. 自らの考えを持てるか	59 44.7%	36 27.3%	23 17.4%	7 5.3%	7 5.3%	4.0 1.14	4.0 1.08
Q13. 総合評価	84 63.6%	31 23.5%	14 10.6%	2 1.5%	1 0.8%	4.5 0.80	4.3 0.92

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>

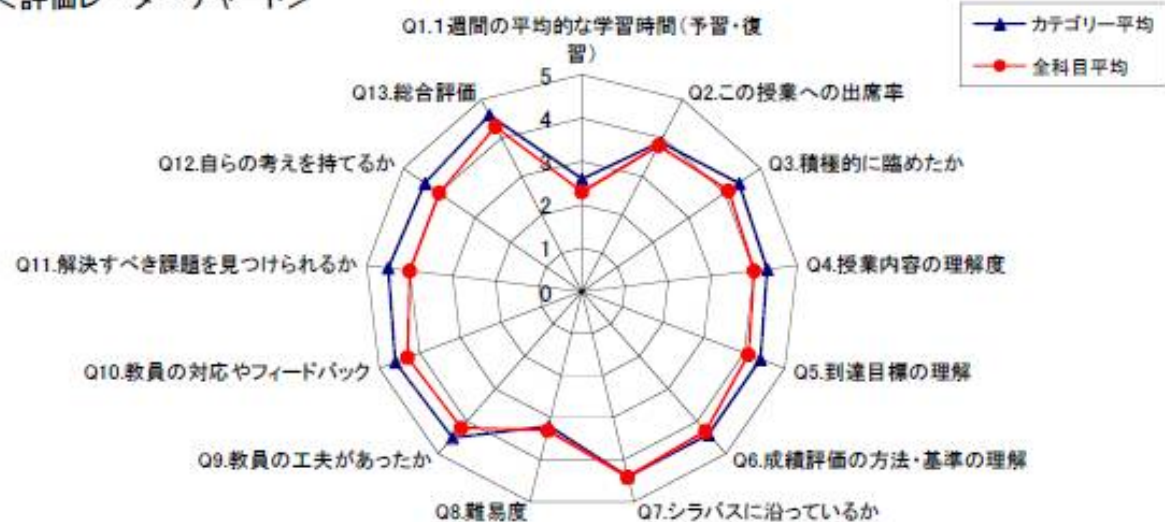


< 教職科目に関する科目 >

評価レーダーチャート」より、カテゴリー平均は、ほぼ全項目において全科目平均と同程度以上の結果となりました。0.3ポイント以上の差が見られた項目は13項目中9項目あり、いずれもカテゴリー平均が上回っていました。学生が授業を通して積極的に学び、成長している様子がうかがえます。しかし、「評価値の経年変化」を見ると、前年度カテゴリーの評価値を下回る項目も7項目あり、改善の余地も少なくありません。なお、自由記述には、豊富なフィードバックや、外部講師による講義を好ましく評価する声が7件見られる一方、スケジュールの変更を懸念する声が1件、改めて挙げられていました。

回答分布(人数と平均値・標準偏差) ※標準偏差の大小は、回答のバラツキの大小を表す。							上段:平均値	
質問内容							下段:標準偏差	
	5	4	3	2	1	カテゴリー	全科目	
Q1. 1週間の平均的な学習時間(予習・復習)	1 1.1%	11 12.5%	36 40.9%	31 35.2%	9 10.2%	2.6	2.3	
Q2. この授業への出席率	21 23.9%	38 43.2%	28 31.8%	1 1.1%	0 0.0%	3.9	3.8	
Q3. 積極的に臨めたか	48 54.5%	31 35.2%	7 8.0%	2 2.3%	0 0.0%	4.4	4.1	
Q4. 授業内容の理解度	47 53.4%	28 31.8%	10 11.4%	1 1.1%	2 2.3%	4.3	4.0	
Q5. 到達目標の理解	51 58.0%	25 28.4%	10 11.4%	1 1.1%	1 1.1%	4.4	4.1	
Q6. 成績評価の方法・基準の理解	51 58.0%	27 30.7%	9 10.2%	0 0.0%	1 1.1%	4.4	4.3	
Q7. シラバスに沿っているか	51 58.0%	25 28.4%	9 10.2%	2 2.3%	1 1.1%	4.4	4.4	
Q8. 難易度	2 2.3%	16 18.2%	67 76.1%	3 3.4%	0 0.0%	3.2	3.3	
Q9. 教員の工夫があったか	55 62.5%	26 29.5%	5 5.7%	2 2.3%	0 0.0%	4.5	4.2	
Q10. 教員の対応やフィードバック	65 73.9%	13 14.8%	8 9.1%	2 2.3%	0 0.0%	4.6	4.3	
Q11. 解決すべき課題を見つけられるか	50 56.8%	29 33.0%	9 10.2%	0 0.0%	0 0.0%	4.5	4.0	
Q12. 自らの考えを持てるか	50 56.8%	27 30.7%	7 8.0%	2 2.3%	2 2.3%	4.4	4.0	
Q13. 総合評価	59 67.0%	24 27.3%	5 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	4.6	4.3	

<評価レーダーチャート>



<評価値の経年変化>



北海商科大学 教育方法改善委員会

〒062-8607

札幌市豊平区豊平6条6丁目10番

代表 (011) 841-1161